



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月13日

上場会社名 株式会社ヒガシマル 上場取引所 福
コード番号 2058 URL <https://www.k-higashimaru.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 勤
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部部長 (氏名) 松久保 稔 (TEL) 099-273-3859
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	11,444	12.4	413	183.7	498	177.6	328	694.9
2024年3月期第3四半期	10,183	10.1	145	207.8	179	4.5	41	△56.9

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 239百万円(23.6%) 2024年3月期第3四半期 193百万円(22.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	83.05	—
2024年3月期第3四半期	10.47	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	16,195	5,418	33.5
2024年3月期	14,700	5,206	35.4

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 5,418百万円 2024年3月期 5,206百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	9.00	9.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,469	3.5	229	—	259	371.9	113	—	28.67

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期3Q	4,746,000株	2024年3月期	4,746,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	790,843株	2024年3月期	799,823株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期3Q	3,951,603株	2024年3月期3Q	3,942,140株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信[添付資料]3ページ、「(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期の連結業績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、残暑の影響で低調だった季節商品の販売が気温の下がった11月からは回復し、家計の所得環境の改善もあって個人消費は持ち直す傾向にありました。また、中国からの訪日客の回復でインバウンド需要の拡大傾向が継続し、国内旅行などと合わせて宿泊・飲食などの観光需要は堅調であり、全体として景気は緩やかに回復する基調となりました。

このような環境のなか、当社グループの事業環境におきましては、外食需要、インバウンド需要の改善基調の継続を受けて売上を伸ばすことができた反面、主要原材料、燃料費、輸送費及び資材費などの価格は高い水準で留まっており、コストカットや販売価格の見直しなどによる収益性改善の取組みを進めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は売上高114億44百万円（前年同四半期比12.4%増）、営業利益4億13百万円（前年同四半期比183.7%増）、経常利益4億98百万円（前年同四半期比177.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億28百万円（前年同四半期比694.9%増）となりました。

①水産事業

水産事業におきましては、インバウンド需要の拡大や最大9連休の年末商戦もあり、外食及び業務用向け関連商材の売買は活発だったものの、全体的なコスト増加や養殖在池尾数の減少等の影響を受けて鮮魚相場が上昇したことから、市場は魚種の切替えなどで安い商材を求める動きとなり、販売競争は激しい状況で推移しました。

養魚用配合飼料の主要原料となる魚粉や魚油は最高値の状況から緩和されましたが、依然として前期よりも高騰しており、燃料費や資材費、輸送費といった生産コストも高止まりの状況が継続しています。業界の動向や取引先の状況に注視しながら、コストダウンと付加価値の高い製品群の販売拡大などによる利益確保に取り組んでまいりました。

エビ飼料類は、販売先での在池尾数が多かったことや、既存客先での当社シェア率アップなどがあり、前年同期を上回りました。ハマチ飼料類は、価格改定前の買込み分で自社・受託製品ともに販売数量が増加し、前年同期を上回りました。ヒラメ・マダイ飼料類は、高水温期の制限給餌による成長の遅れを取り戻すために大手養殖業者が積極的に給餌したことなどから、前年同期を上回りました。

魚類種苗生産事業は、養殖業者向けと放流事業向けの出荷が共に増加し、成魚販売も拡大したことから、前年同期を上回りました。鮮魚販売事業は、価格改定後も拡販ができたことと、新規量販店向けの販売継続や大口取引先でのシェア回復ができたことから、前年同期を上回りました。クルマエビ養殖事業は、養殖池の環境改善や鳥害対策の効果により在庫数量が多くなり出荷数量も増加したことから、前年同期を上回りました。魚類養殖事業は、販売尾数が減少したスギは販売単価の改定と出荷時の魚体重が増加したことで販売額は前年並みとなり、前期で養殖を終了したクロマグロの出荷がなかったことから、前年同期を下回りました。

その結果、売上高は71億41百万円（前年同四半期比19.5%増）、セグメント利益は5億89百万円（前年同四半期比35.6%増）となりました。

②食品事業

食品事業におきましては、量販店が集客を改善するために価格優位性があるPB商品で他店との差別化を図る動きが強まっています。また、インバウンド需要は増加傾向であり、引き続き海外向け市場も活発に推移しました。

当社グループにおきましては、主原料である小麦粉の価格はやや下がって安定する傾向にありますが、原油価格が上昇傾向にあり、製造・物流コストも増加する傾向にあります。他社メーカーとの拡販競争は今後も厳しいものであることが予想され、販売アイテムの統廃合による生産効率の改善や、付加価値の高い製品群の販売拡大などによる利益確保に取り組んでまいりました。

即席麺類と乾麺類（うどん・そうめん等）は、価格改定や休業・終売の影響による販売数量の減少があり、前年同期を下回りました。皿うどん類は、自社の価格訴求品と新商品の販売が増加し、前年同期を上回りました。ラーメン類は、自社商品の販売数量は減少しましたが、海外向けPB商品の受注が増加し、前年同期を上回りました。

カレールー・シチュールー類は、小容量の米粉カレールーの新規導入や、価格が高騰した牛肉よりも比較的安

価な鶏肉とのコラボ販売を実施したクリームシチュールーの販促が進み、レトルトの新商品の受注も増加したことから、前年同期を上回りました。穀粉類は、海外向け業務用製品の増加や新規企画の採用はありましたが、複数の取引先で企画商品がなかった影響などにより、前年同期を下回りました。かき揚げ類は、生産拠点集約化による製造コスト削減は進みましたが、原料となる白エビの極端な不漁や天候不良による農作物の減産のため共同購入事業者向け受注の数量を制限したことや価格改定の影響による受注減少があり、前年同期を下回りました。

その結果、売上高は43億3百万円（前年同四半期比2.3%増）、セグメント利益は1億11百万円（前年同四半期はセグメント損失34百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ14億94百万円増加し、161億95百万円となりました。これは、主として、現金及び預金が4億85百万円増加し、受取手形及び売掛金が10億82百万円増加し、商品及び製品が95百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ12億82百万円増加し、107億76百万円となりました。これは、主として買掛金が5億80百万円増加し、短期借入金が13億68百万円増加したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ2億12百万円増加し、54億18百万円となりました。これは、利益剰余金が2億92百万円増加し、その他有価証券評価差額金が88百万円減少したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上高は、通常第1四半期連結会計期間より第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の割合が高くなる季節的特徴があります。2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年5月13日に公表しました「2024年3月期決算短信」における業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,446	1,931
受取手形及び売掛金	2,057	3,139
商品及び製品	770	865
仕掛品	421	451
原材料及び貯蔵品	1,982	1,947
その他	160	123
貸倒引当金	△12	△12
流動資産合計	6,826	8,447
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,275	2,264
土地	2,222	2,222
その他（純額）	1,676	1,646
有形固定資産合計	6,174	6,133
無形固定資産		
のれん	47	33
その他	30	31
無形固定資産合計	78	64
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,667	1,593
貸倒引当金	△46	△43
投資その他の資産合計	1,620	1,549
固定資産合計	7,873	7,747
資産合計	14,700	16,195

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	796	1,376
短期借入金	3,128	4,497
未払法人税等	117	123
賞与引当金	176	88
その他	792	838
流動負債合計	5,012	6,924
固定負債		
長期借入金	2,864	2,470
役員退職慰労引当金	40	46
退職給付に係る負債	82	85
その他	1,493	1,248
固定負債合計	4,482	3,851
負債合計	9,494	10,776
純資産の部		
株主資本		
資本金	603	603
資本剰余金	431	430
利益剰余金	4,674	4,967
自己株式	△875	△865
株主資本合計	4,834	5,135
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	371	282
その他の包括利益累計額合計	371	282
純資産合計	5,206	5,418
負債純資産合計	14,700	16,195

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	10,183	11,444
売上原価	8,317	9,275
売上総利益	1,866	2,169
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	436	473
貸倒引当金繰入額	9	-
給料及び賞与	427	438
賞与引当金繰入額	29	30
退職給付費用	25	18
役員退職慰労引当金繰入額	16	5
その他	776	789
販売費及び一般管理費合計	1,720	1,755
営業利益	145	413
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	13	16
為替差益	5	1
受取保険金	1	32
デリバティブ評価益	19	20
雑収入	46	52
営業外収益合計	89	127
営業外費用		
支払利息	28	37
支払補償費	27	-
雑損失	0	5
営業外費用合計	55	43
経常利益	179	498
税金等調整前四半期純利益	179	498
法人税、住民税及び事業税	142	204
法人税等調整額	△4	△34
法人税等合計	138	169
四半期純利益	41	328
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	41	328

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	41	328
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	152	△88
その他の包括利益合計	152	△88
四半期包括利益	193	239
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	193	239
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	4,524	—	4,524	—	4,524
養殖魚類	1,453	—	1,453	—	1,453
乾麺・即席麺類	—	1,872	1,872	—	1,872
カレールー・シチュールー類	—	1,253	1,253	—	1,253
穀粉類	—	573	573	—	573
かき揚げ類	—	506	506	—	506
顧客との契約から生じる収益	5,977	4,205	10,183	—	10,183
外部顧客への売上高	5,977	4,205	10,183	—	10,183
セグメント利益又は損失(△)	434	△34	399	△220	179

(注) 1 セグメント利益の調整額△220百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費232百万円、営業外収益26百万円、営業外費用14百万円であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	5,318	—	5,318	—	5,318
養殖魚類	1,822	—	1,822	—	1,822
乾麺・即席麺類	—	1,956	1,956	—	1,956
カレールー・シチュールー類	—	1,362	1,362	—	1,362
穀粉類	—	537	537	—	537
かき揚げ類	—	446	446	—	446
顧客との契約から生じる収益	7,141	4,303	11,444	—	11,444
外部顧客への売上高	7,141	4,303	11,444	—	11,444
セグメント利益	589	111	700	△202	498

(注) 1 セグメント利益の調整額△202百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費213百万円、営業外収益33百万円、営業外費用23百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	343百万円	331百万円
のれんの償却額	14百万円	14百万円